

▼他団体の活動

サステナブル・ツーリズム（持続可能な観光）
の実現に向けて

日本政府観光局（JNTO）



日本政府観光局（JNTO）は、日本で唯一のインバウンド（訪日外国人旅行者の誘致）を専門とする公的機関です。「日本の魅力を、日本のチカラへ。」をモットーとして、インバウンドを通じた国民経済の発展、地域の活性化、国際的な相互理解の促進、日本のブランド力向上を目指しています。

2019年には年間で約3,200万人の外国人旅行者が日本を訪れ、その消費額は約5兆円にのぼりました。コロナ禍以降は世界各国で国際観光の小休止が余儀なくされましたが再開の傾向にあり、日本においても今年6月に添乗員付きパッケージツアーに限り観光客の受入が始まりました。

そして、観光業界では、コロナ禍を見直しや変革の好機として、日本の観光をサステナブル（持続可能）なものとするために、「サステナブル・ツーリズム（持続可能な観光）」の実現に向けて取組を進めてきています。

■サステナブル・ツーリズムとは

サステナブル・ツーリズムとは、国連世界観光機関（UNWTO）によれば、「訪問客、産業、環境、受け入れ地域の需要に適合しつつ、現在と未来の環境、社会文化、経済への影響に十分配慮した観光」を意味します。言い換えれば、旅行者、観光関係事業者、受入地域にとって、「環境」「文化」「経済」の観点で「三方よし」の観光を目指すということです。

このサステナブル・ツーリズムへの関心が、ここ数年で世界的に高まっています。その背景には、観光をめぐる環境の変化があるのではないかと考えられます。

コロナ禍以前は、国と国をまたぐ国際旅行者数は2010年以降、年々増加傾向にあり、2019年にその数は14億6000億人に達しました。こうした旅行者の増加が、観光地において地域の社会経済の活性化や雇用の創出に貢献したことは言うまでもありません。しかしその一方で、過度に旅行者が集中する地域においては、自然環境への影響やそこで暮らす人々の生活に大きな負荷が発生するなど、観光が与える負の側面も明らかになってきました。

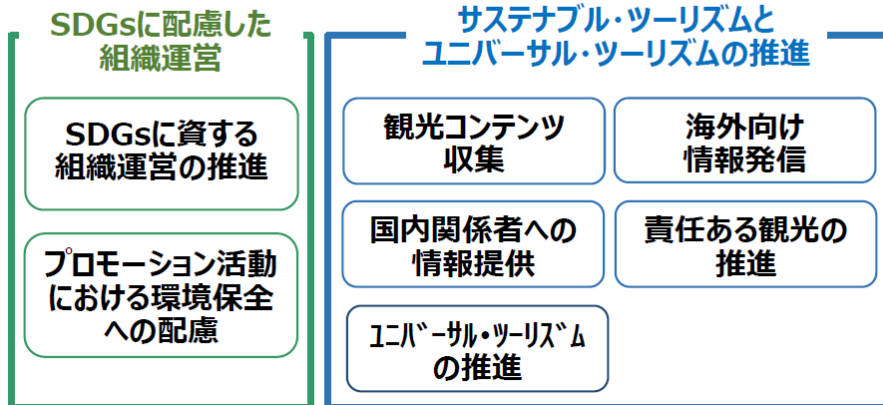
コロナ禍にあって世界中で観光需要が一気に蒸発したことで、皮肉にも人々が観光の正負の影響を実感しやすい状況が生まれたのです。そこで観光地域においては、正の影響を最大化し、同時に、負の影響を最小化する取組がこれまで以上に求められるようになりました。

また同時に、消費活動全般における消費者の「持続可能な開発目標（SDGs）」に対する意識の高まりを背景として、旅行者は自らが旅を通じて地域社会の文化や経済、環境に与える影響に敏感になり、旅行先や移動手段等について、よりサステナブルな選択をしたいと考える傾向が高まっています。

■JNTOの取組方針及び取組事例

こうしたサステナブル・ツーリズムをめぐる国際的な潮流を受けて、JNTOでは2021年6月に「[SDGsへの貢献と持続可能な観光（サステナブル・ツーリズム）の推進に係る取組方針](#)」を策定しました。同方針に基づき、SDGsに配慮した組織運営を図るとともに、サステナブル・ツーリズムの推進に取り組む日本の地域や観光コンテンツ（アクティビティ、宿泊施設等）の海外向け情報発信、先進事例の国内向け情報提供、旅行者に対する「責任ある観光」の奨励等に取り組んでいます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



こうした取組の一環として、サステナビリティ（持続可能性）を体現する日本の観光コンテンツの魅力を発信し、サステナブル・ツーリズムの旅行先としての日本の認知度を高めるため、英語版のデジタル・パンフレット『[EXPLORE DEEPER -Sustainable Travel Experiences in JAPAN-](#)』を制作・発表しました。



EXPLORE DEEPER -Sustainable Travel Experiences in JAPAN-

本デジタル・パンフレットでは、「自然と自然に根ざした文化」をコンセプトに掲げ、「自然を楽しむアウトドア・アクティビティ」「エコ・フレンドリーな宿泊施設」「地域に根付く伝統芸能」「匠の技に触れる」など 10 のテーマ別に、50 件の観光コンテンツを紹介しています。また、「観光を通じた東北震災復興」「先住民族・アイヌ文化」に関する特集記事も収録しています。

日本の暮らしには、自然のもたらす恵みに感謝して敬い、先人たちが築いてきた伝統や文化を大切にしようとするような、サステナブルな営みが多く存在しています。しかし、日本人にとっては当たり前であるがゆえにその価値に気が付くことができず、価値を発揮せずに眠っているケースもまた多くあるのが実情です。その価値を見直し、海外の旅行者に対して日本で体験できる観光コンテンツとして紹介し、実際に体験してもらうことを通じて、サステナブルな循環を生みたいと考えています。

今回は JNTO のサステナブル・ツーリズムに関する取組の一例をご紹介します。今後も JNTO では、「住んで良し、訪れて良し」の地域づくりに向けて、海外向け情報発信や国内の受入地域・観光関連事業者の皆様への知見の共有・支援に積極的に取り組んでいきます。また、サステナブル・ツーリズムの実現に向けた担い手として、旅行者を受け入れる国内の地域と観光関連事業者、また実際に旅をする旅行者の一人ひとりの意識とアクションの広がりを期待しています。